



土地 改良



みどり
水土里ネットとちぎは本会の愛称です。

第521号 平成30年度第3号



栃木の土地改良

第521号 | 平成30年度第3号

MAIN CONTENTS

新年のごあいさつ

水土里ネットとちぎ会長	大久保寿夫	1
栃木県知事	福田 富一	2
栃木県農政部長	渡邊 和明	3
全国水土里ネット会長	二階 俊博	4
参議院議員	進藤かねひこ	5
全国水土里ネット会長会議 顧問	宮崎まさお	6

会議

◇平成 30 年度第 3 回理事会を開催	7
◇平成 30 年度第 1 回農業農村整備部会を開催	7
◇農業農村整備を推進する会を開催	8
◇平成 30 年度土地改良区等職員研修会を開催	9

事業情報

○栃木県土地改良換地士部会優良先進事例視察研修会を開催	10
○おやま田んぼアート 2018 稲刈り体験	10,11
○「平成 30 年度 地域資源保全！ 住民参加を考えるシンポジウム in とちぎ」を開催	11
○第 41 回全国土地改良大会が宮城県で開催	12,13
○とちぎ“食と農”ふれあいフェア 2018	14
○農業農村整備の集い開催	15,16
○平成 30 年度県営土地改良事業の換地業務に係る 感謝状贈呈式を開催	17
○「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2018	18

会員土地改良区（連合）情報

☆女性職員研修会に参加	18
☆秋の叙勲 大出巖氏が瑞宝単光章を受章	19
☆第 18 回花と農産物の清南大地食の祭典（水土里ネット清原南部）	19
☆シリーズ土地改良区紹介②水土里ネット烏山	20,21

竣工式・起工式

県営経営体育成基盤整備事業小代地区の竣工式が開催	22
県営農業競争力強化基盤整備事業下稲葉地区の起工式が開催	22
県営農業競争力強化農地整備事業荒井町島地区の起工式が開催	22

案内

◎宇都宮市健康づくり事業者表彰式	23
◎特別賦課金に関するアンケート調査結果について	23
◎第 102 回通常総会のお知らせ	24
◎出前講座を活用しましょう	24
◎会員向けホームページ作成サービスのお知らせ	24
◎農林年金からのお知らせ	24
◎農家負担金軽減対策事業について	25
◎株式会社日本政策金融公庫からのお知らせ	25



新年のごあいさつ

水土里ネットとちぎ（栃木県土地改良事業団体連合会）

会 長 大久保 寿夫

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、本会の業務運営につきましては、日頃より格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は、記録的な猛暑や異常気象がもたらす豪雨、そして台風など自然災害の多い年でございました。関東地方は6月6日に梅雨入りしましたが、梅雨の期間はわずか23日間ということで、29日には梅雨明けとなりました。7月には、佐野市で県内観測史上最高となる39.2度を記録し、記録的な猛暑が続く中、中国四国地方を中心に集中豪雨による大災害が発生いたしまして、200人を超える尊い命が失われ、農地や農業用施設も甚大な被害を受けました。また、9月には台風21号、24号が相次いで日本列島に上陸し、本県でも強風により農業用ハウスが倒壊するなどの被害が発生いたしました。被災された方々には、衷心よりお見舞いを申し上げます次第です。

さて、皆様ご案内のとおり、本県の農業農村は、農業従事者の高齢化や担い手不足に加えて、農業水利施設の老朽化などの諸問題を抱えております。農業を次世代の担い手にとって魅力ある産業として発展させ、若者にとって夢と希望が持てる「儲かる農業」を実現するには、従来の稲作中心の農業形態から脱却し、収益性の高い園芸生産にシフトしていくことが求められており、栃木県が進めております水田を活用した土地利用型園芸の産地づくり“園芸大

国とちぎ”実現のためには、水田の大区画化や汎用化など農業生産基盤整備の着実な推進が必要不可欠であります。また、農業競争力を強化するためには、担い手への農地の集積・集約化により生産コストを削減するとともに、無人トラクターなどのロボット技術やICTを活用した水管理システム等を積極的に導入するなど、労働の省力化を図って行くことが重要であります。更には、前述しましたとおり、自然災害が多発している状況を踏まえまして、国土強靱化の観点からも農村地域の防災・減災対策は喫緊の課題でありますので、農業水利施設の計画的な保全整備が必要であります。

この様な中、平成31年度の国の農業農村整備関係予算は、平成30年度の第2次補正予算と合わせて6,451億円が確保される見通しとなりました。これは、一昨年の5,772億円、昨年の5,800億円を大幅に上回るものであります。これも偏に会員皆様方の国や県に対する要請活動の成果であると改めて感謝を申し上げます次第です。しかしながら、事業を安定的、且つ計画的に実施するための当初予算につきましては、未だに不足している状況ですので、引き続き予算の確保に努めて参りますとともに、会員皆様のニーズに応えるべく、国、県と連携を図りながら事業を推進して参りたいと存じますので、会員の皆様には引き続き、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、会員皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

新年のごあいさつ

栃木県知事

福田 富一



皆様、あけましておめでとうございます。年頭に当たりまして、私の所信を申し上げます。

私は、就任以来、「元気」なとちぎづくりに取り組むとともに、これまで培われてきた本県の魅力・実力を磨き上げ、積極的な発信に努めて参りました。

昨年を振り返りますと、1月15日を「いちご王国・栃木の日」と宣言し、戦略的なプロモーションを展開するとともに、4月から6月までJRグループと協働し、市町や関係機関、県民の皆様とオールとちぎで「本物の出会い 栃木」デスティネーションキャンペーン（DC）に取り組んだほか、夏には関西圏等における情報発信拠点として大阪センターを開所するなど、とちぎの魅力・実力を広く国内外にアピールして参りました。

さて、今年は、栃木県版まち・ひと・しごと創生総合戦略「とちぎ創生^{いちご}15戦略」が最終年度を迎えることから、戦略の総仕上げを行うとともに、4年目となる栃木県重点戦略「とちぎ元気発信プラン」に掲げる各プロジェクトの更なる推進を図ることとし、「とちぎの未来創生に向けた施策の推進」、「安全・安心なとちぎづくり」、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、第77回国民体育大会『いちご^{いちご}一会とちぎ国体』と第22回全国障害者スポーツ大会『いちご^{いちご}一会とちぎ大会』に向けた着実な取組」の3点を重点事項として取り組み、本県の将来像である「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な“とちぎ”」づくりを一層進めて参ります。

具体的取組といたしまして、とちぎの未来創生に向けましては、急速に進行する人口減少社会やグローバル社会に対応するため、企業等の生産性向上

への支援や戦略的な企業誘致に取り組むとともに、本県農業を力強い成長産業へと発展させていくため、収益性の高い園芸生産の拡大を図る「園芸大国とちぎづくり」や、ロボット・IoTなど先端技術の活用推進を図る「スマート農業とちぎの推進」等の各種施策を積極的に推進して参ります。

また、子どもから若い世代、そして高齢者に至るまですべての世代にとって安全で安心なとちぎづくりを目指し、多発する災害から県民の生命や財産を守るべく防災・危機管理体制に万全を期すほか、誰もが安心して子どもを生み育てることができる環境の整備や、県民一人ひとりの更なる健康づくりを推進して参ります。

さらに、来年には、東京2020大会が開催されますので、本県の魅力・実力を戦略的に発信し、とちぎブランドの確立を図っていくとともに、その2年後に本県で開催するいちご^{いちご}一会とちぎ国体等の成功に向け、市町と連携した競技施設の整備推進や競技力の向上に努めて参ります。

こうした取組を着実に進めることで、活力と魅力あふれる“とちぎ”をつくり、県民の皆様一人ひとりが、とちぎに暮らしていてよかったと思うとともに、ふるさと“とちぎ”に愛着と誇りを持っていただけるよう、全身全霊を傾けて取り組んで参りますので、皆様のより一層の御理解、御支援をお願いいたします。

本年が皆様にとって実り多き素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ

栃木県農政部長

渡邊 和明



明けましておめでとうございます。新春を迎え、謹んで喜び申し上げます。

さて、TPP11、日欧 EPA をはじめとする国際化の進展や人口減少など、農業を取り巻く環境が内外ともに変化する中、とちぎの農業を力強い成長産業へと発展させていくためには、本県の強みである広大な農地や豊富な水資源、優れた生産技術を最大限活用し、競争力の高い農業を実現させていく必要があります。

このため、県では、国際化にも対応できる強い経営体の育成に向けて、農地中間管理機構を活用した担い手への農地集積・集約を進めるとともに、収益性の高い園芸生産の拡大を図る「園芸大国とちぎづくり」などの各種施策を展開しております。

これらの施策の推進に当たっては、その礎となる農業生産基盤が極めて重要であります。このため、農地の大区画化や汎用化、ICT を活用した省力化技術の導入など、地域のニーズに即した基盤整備を計

画的に推進していくとともに、豊かで活力ある農村づくりに向けて、農業者と地域住民とが協力した農地や水路等の維持・保全活動を積極的に支援して参りたいと考えております。

また、昨年、土地改良法の一部改正が行われ、「准組合員制度」の新設や「利水調整規程」による配水調整のルール化、「複式簿記」の導入等の措置が講じられることとなりましたので、県としましては、これらの制度の周知や導入に向けて積極的に支援を行って参ります。

貴連合会におかれましては、今後とも本県の農業農村整備の推進に御尽力いただくとともに、多面的機能を持つ農地や農業用水の保全管理への指導・助言になお一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして幸多き年となりますことを心からご祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

新年にあたって

全国水土里ネット（全国土地改良事業団体連合会）

会 長 二階 俊博



平成 31 年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年また、我が国は非常に多くの災害に見舞われました。6 月には大阪北部地震が、6 月下旬から 7 月上旬にかけては、西日本を中心に、北海道や中部地方など全国的に広い範囲で台風 7 号および梅雨前線等の影響による集中豪雨が、9 月には北海道胆振東部地震が、また、7 月から 9 月にかけては 5 度に及び台風が我が国に上陸し、多大な被害をもたらしました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、1 日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思います。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に 7 割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。全国の皆様の大きな力によって、平成 31 年度当初予算は、重要インフラの緊急点検等を踏まえた防災・減災、国土強靱化のための緊急対策 546 億円を含めて 4963 億円、平成 30 年度の第二次補正予算 1488 億円を合わせると、6451 億円となりました。ひとえに皆様方のご尽力の賜であると、心から感謝致します。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、私たちの代表として当選された進藤かねひこ参議院議員も全国を飛び回り、元気に頑張っており、その評価は極めて高いものがあります。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層「闘う土地改良」の浸透が図られるよう念じております。更には、進藤議員と車の両輪たらんとする宮崎まさ

お氏も、来たるべき闘いに向けて、全国の皆様の所へ伺っているところであります。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、昨年の通常国会では改正土地改良法が成立し、土地改良にとって、2 年続けて改正された新しい土地改良法を基軸に、新たな展開を図る大きな節目の年となります。

私たち土地改良担当者としては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。

新年を迎えて

全国水土里ネット会長会議顧問

参議院議員 進藤 かねひこ



新年明けましておめでとうございます。昨年は、自然災害が頻発した年でした。被災された全ての方々
に心からお見舞い申し上げます。平成最後の年となる今年も、「平成」の由来の如く「地平天成」（地平らかにして天なる：国の内外、天地とも平和が達成される）の年になることを強く願いたいと思います。

さて、昨年末に平成30年度第2次補正予算と平成31年度当初予算の政府原案が閣議決定されました。土地改良予算としては、総額で6,451億円（30年度補正：1,488億円、31年度当初：4,963億円）を確保することができました。これもひとえに、農業改革の推進に不可欠な土地改良の実施に向けた現場からの強い要請と関係者の皆様の熱意を、政府と与党にしっかりと受け止めていただいた結果です。予算は、人任せでは確保できない、自ら汗をかき実働して確保する、まさに「闘う土地改良」の成果であると言えます。この貴重な予算が一日も早く現場に届くよう、今次通常国会で早期成立に向けて努力してまいります。

今回の予算の特徴は、何と言っても「国土強靱化」に重点が置かれたことです。重要インフラの緊急点検等を踏まえた「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」として補正と当初を合わせて1,091億円計上され、制度的にも防災重点ため池整備等で大幅な拡充がなされました。また、ここ2回にわたる土地改良法の大改正を踏まえ、土地改良区の複式簿記の義務化等に対応した土地改良区体制強化事業が整備されるなど、現場の声に即した具体

的な対応策も示されました。農業競争力強化関係でも現場の実態に即した要件設定やハードとソフトの連携強化策などが盛り込まれています。今回の予算は、土地改良の原点である現場重視の視点が更に強化されたものとなっています。この貴重な予算を効率的、効果的に執行し、土地改良に対する国民の皆様の期待に応えていくことが重要です。

栃木県におかれましては、農業競争力の強化に向けて、国際化にも対応できる経営体を育成するために、県土連と農地中間管理機構を所管する県農業振興公社が担い手への農地の集積・集約化に関する協定を締結し、機構関連事業に積極的に取り組んでいると伺っております。

私もそれら施策実現のための貴重な予算が一日も早く現場に届きますよう、通常国会で早期成立に向けて努力して参りますとともに、昨年に引き続き、本年も現場の声をお伺いするために、全国を回らせていただきたいと考えております。

皆様、ご案内のとおり私の同志である宮崎雅夫（まさお）さん（全国水土里ネット会長会議顧問）も「土地改良は未来への礎」を訴えて全国各地を精力的に巡回しています。宮崎さんと私が皆様と連携して「闘う土地改良」を共闘できるようにご指導とご支援を心からお願い申し上げます。

本年も引き続き皆様と一緒に諸課題の解決に向けて専心努力してまいりたい覚悟です。本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

「闘う土地改良」 —未来への礎を築くために

全国水土里ネット会長会議

顧問 宮崎 まさお



新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

私にとっては、いよいよ決戦の年となりました。

全国の関係者の皆様の土地改良に対する熱い思いに触発され、全国水土里ネットの二階俊博会長が提唱された「闘う土地改良」の旗のもと、不退転の覚悟で政治活動に取り組むことを決意し、一昨年末、30年間勤めた農林水産省を地域整備課長を最後に退職しました。昨年1月には全国水土里ネット会長会議顧問を仰せつかり、この一年間、全国各地で地域の実情や意見をつぶさに拝聴させていただききました。これまでの移動距離は地球5周分の20万kmになりました。

昨年は、西日本豪雨や北海道胆振東部地震をはじめとする地震、台風、さらには噴火など、全国各地で自然災害が相次ぎました。被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を願ってやみません。また、被災地の状況をお聞きするたびに、防災・減災対策は一刻の猶予も許されないとの思いを強くしています。

土地改良は、先人が創り上げてきた農地やかんがい排水施設などをそれぞれの時代に応じて整備を行い、次の世代に引き継いでいくシステムです。つまり、土地改良は、現在の農業の発展はもとより、日本の「未来への礎」を築くものであると考えています。

私は、現場でお聞きした様々な課題を解決し、日本の素晴らしい農山漁村を「未来への礎」として、子どもや孫たちに引き継いでいくため、「大切な農地と水を守る」「農山漁村を災害から守る」「美しい農山漁村を守る」という3つの目標のもと、これを実現するため、土地改良の安定的な予算確保や災害

に強い農山漁村づくりなど、7つのチャレンジに全力で取り組んでいく考えです。

とりわけ土地改良予算については、「闘う土地改良」の旗のもと、関係者の努力により回復基調にはありますが、地域の切実な要望に応えるためには、当初予算の回復・拡大が必要です。国政の場において、進藤かねひこ議員が「闘う土地改良」の先陣を担っておられますが、私もその一翼となれるよう、全身全霊をもって活動に打ち込んでいく考えです。そして、現場と国政の間を、私の好きなテニスのボールのように素早く往復し、現場の声を施策に反映していきたいと考えています。

今年は天皇陛下が御退位され、元号が変わる大きな節目の年です。新しい時代の始まりの年でもあり、土地改良にとっても大きく羽ばたく年にしなければなりません。皆様の土地改良に対する熱い思いと大きな力を、私、宮崎まさおに賜りますようお願いいたします。

むすびに、本年が皆様にとって実り多き年となりますように祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。

宮崎まさお 7つのチャレンジ

1. 土地改良の安定的な予算確保にチャレンジ
2. 災害に強い農山漁村づくりにチャレンジ
3. 農地や水を守り育てる体制の強化にチャレンジ
4. 自然豊かな美しい農山漁村の継承にチャレンジ
5. 世界に日本の農林水産業と農山漁村のすばらしさの発信にチャレンジ
6. 女性の視点を大切にした農山漁村政策の展開にチャレンジ
7. 農林水産業と農山漁村への国民の理解づくりにチャレンジ

平成30年度第3回理事会を開催

日時：平成30年12月20日（木）

午後4時30分～

場所：宇都宮市内



大久保会長

会議は、天川総務部長の司会進行で開会し、大久保寿夫会長の挨拶に続き、議事に入りました。

議事は、大久保会長が議長となり、高橋事務局長の議案説明の後、次の議事について審議し、全て原案どおり可決されました。

【議事】

- 第1号議案 平成30年度一般会計予算の補正
- 第2号議案 職員給与規程の一部改正
- 第3号議案 農林水産省検査指摘事項に関する改善措置

平成30年度第1回農業農村整備部会を開催

日時：平成30年10月9日（火）

午前10時00分～

場所：栃木県土地改良会館



田井部会長

全て原案どおり可決決定・承認されました。なお、第3号議案の「副部会長の互選について」は、本会理事である上三川町の星野光利町長並びに南河内土地改良区の黒川英代理事長が選任されました。

また、議事終了後、古川和弘関東農政局農村振興部設計課事業調整室長を講師に研修会が行われました。

【議事】

- 第1号議案 平成29年度活動報告
- 第2号議案 平成30年度事業計画
- 第3号議案 副部会長の互選

【報告事項】

- (1) 農業農村整備事業予算確保に係る要請活動
- (2) 平成31年度県農地等利用最適化推進に関する意見及び県農業等施策並びに予算に関する要望事項
- (3) 農業農村整備の集い

【研修会】

平成31年度農業農村整備事業等予算概算要求及び土地改良法の一部改正について

会議は、天川総務部長の司会進行で開会し、田井哲部会長の挨拶をいただき、議事に入りました。

議事は、田井部会長が議長となり、高橋事務局長の議案等説明の後、次の議事及び報告事項について審議し、

農業農村整備を推進する会を開催

日時：平成 30 年 10 月 19 日（水）

午後 3 時 00 分～

場所：宇都宮市内

農業農村整備を推進する会（会長：岡本芳明清原南部土地改良区理事長）は、水土里ネットとちぎの会員等約 100 人の出席を得て、「県議との懇談会」・「講演会」を開催しました。最初に、岡本会長が主催者挨拶を述べ、

続いて大久保寿夫県土連会長、県議会を代表して五十嵐清議長からご挨拶をいただき、第 1 部の「県議との懇談会」に入りました。

懇談会では、出席していただいた各県議会議員より、各地域での農業農村整備事業に対する思いや期待することなどをお話ししていただきました。次に、4 人の出席者からそれぞれ次の要望が提出されました。

「農業の競争力強化に資する農業生産基盤整備事業の推進について」
「国土強靱化に資する農業水利施設の更新整備について」
「土地改良区への体制強化のための支援について」
「多面的機能支払交付金事業の支援について」

田井哲日光市土地改良区理事長
島田一男佐野市土地改良区理事長
黒川英代南河内土地改良区理事長
荒井一夫金田北部土地改良区理事長

提出された要望については、螺良昭人自民党県連政務調査会長・守田浩樹農林環境委員長・荒井真一栃木県農政部次長より、それぞれ自民党県連、県議会農林環境委

員会、栃木県の立場から力強いコメントをいただきました。

なお、懇談会に出席していただいた県議会議員及び県職員は、次のとおりです。

五十嵐清県議会議員（小山市、野木町選挙区）
螺良昭人自民党県連政務調査会長（宇都宮市、上三川町選挙区）
守田浩樹農林環境委員長（矢板市選挙区）
金子裕県議会議員（佐野市選挙区）
三森文徳県議会議員（那須烏山市、那珂川町選挙区）
荒井真一栃木県農政部次長
清水靖夫栃木県農政部農村振興課長
青柳俊明栃木県農政部農地整備課長

第 2 部の「講演会」は、宮崎まさお全国水土里ネット会長会議顧問を講師にお迎えし、「農業農村整備の今後の展開方向」と題して、約 30 分間のご講演をいただきました。講演会では、今後の大きな展開方向として、「大

切な農地と水を守る。農業農村を災害から守る。美しい農山漁村を守る。」ために土地改良をしっかりとっていかねばならないと述べられました。



農業農村整備を推進する会 岡本芳明会長



宮崎まさお全国水土里ネット会長会議顧問

平成30年度土地改良区等職員研修会を開催

日時：平成30年11月29日（木）

午後1時30分～午後4時45分

11月30日（金）

午前9時00分～午前11時00分

場所：日光市内

本会は、会員土地改良区並びに土地改良区連合の職員を対象とした「平成30年度土地改良区等職員研修会」を開催しました。

本研修会は、土地改良区等の職員の資質の向上と会員水土里ネット職員相互の交流を深め情報交換を行うことによって、水土里ネットの適正な運営に資することを目的としています。

第1日目の研修は、はじめに、「土地改良区の適正な運営の確保について」と題し、農林水産省関東農政局農村振興部土地改良管理課 黒田実行政専門員より、次に「土地改良区会計の複式簿記化と開始貸借対照表の準備について」と題し、全国土地改良事業団体連合会 中央換地センター 田村栄二参与から説明をいただきました。

その他、本会職員により「土地改良区のホームページ

作成と運用について」、「水土里ネットとちぎ 新会計システム（複式簿記）について」に関し説明をおこないました。

第2日目は、参加土地改良区等より事前にテーマを提出して貰い、各改良区の運営状況や、賦課金、職員の福利厚生等について、参加職員相互による意見交換が活発に行われました。

また、第1日目研修会終了後、同ホテル内において、「情報交換会」を開催し、土地改良区職員と本会職員間で土地改良に係る関連な情報交換が行われ、実りある研修会となりました。

◇ 第1日目 ◇

- ① 土地改良区の適正な運営の確保について
- ② 土地改良区会計の複式簿記化と開始貸借対照表の準備について
- ③ 土地改良区のホームページ作成と運用について
- ④ 水土里ネットとちぎ 新会計システム（複式簿記）について

◇ 第2日目 ◇

- ⑤ 意見交換会



黒田実 関東農政局 土地改良管理課 行政専門員



田村栄二 全国水土里ネット 参与

栃木県土地改良換地士部会優良先進事例 視察研修会を開催

日時：平成 30 年 9 月 20 日（木）
～平成 30 年 9 月 21 日（金）

場所：新潟市内

栃木県土地改良換地士部会は、新潟県燕市の西蒲原土地改良区（南地区事務所）において土地改良換地士の資質の向上を目的として、優良先進事例視察研修会を開催し、部会員 17 名が参加しました。

研修会は、はじめに西蒲原土地改良区（南地区事務所）の中野主査より、土地改良区のあゆみ・概要及び事業概要の説明を受け、その後、中間管理機構を活用した集積

方法等について、大戸地区基盤整備事業実行委員会の中川委員長より説明を受けました。

大戸地区は、平成 15 年 1 月より圃場整備事業の検討に入り、集積についても併せて取組みを実施。特に平成 27 年度からの農地中間管理機構を活用することにより、大胆かつ積極的に進めることができ、集積率 90.72%と大きな成果を得た地区です。

本県でも、担い手への集積を考慮した換地計画が求められており当地区の地域への働きかけ方、集積の方法など、大変興味深い内容で勉強になりました。



研修の様子



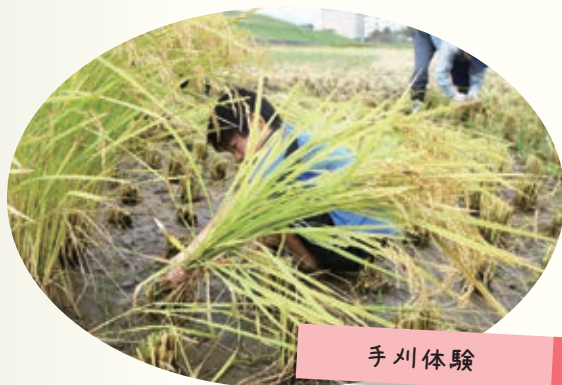
おやま田んぼアート2018稲刈り体験

日時：平成 30 年 10 月 6 日（土）
午前 10 時 00 分～
場所：小山市内 4 会場

本会が測量・設計を行ったおやま田んぼアート会場で稲刈り体験が開催されました。今年度は 4 か所同日開催され、500 名を超える参加者が黄金色に実った稲穂を手刈りで収穫しました。稲穂だけではなく、田んぼにすむ生き物を取り、大喜びしている子供たちの姿も見受けられ、賑やかで楽しい収穫体験となりました。



足踏み脱穀機体験



手刈体験



おや?

「平成30年度 地域資源保全！住民参加を考えるシンポジウムinとちぎ」を開催

日時：平成30年10月12日（金）～13日（土）

場所：小山市内

上記シンポジウム初日は、主催者として日本グラウンドワーク協会 竹谷裕之理事長と、栃木県農地水多面的機能保全推進協議会 大久保寿夫会長がそれぞれ挨拶し、来賓代表として関東農政局農村振興部の高橋英美農地整備課長より祝辞をいただきました。

続いて基調講演として、農林水産省農村振興局整備部農地資源課の長山政道多面的機能支払推進室長より、多面的機能支払交付金の概要から課題・対応方向、グラウンドワークとの連携についてご講演いただきました。

次に、活動事例紹介を①小山市産業観光部 田尻淳次長兼農村整備課長、②みたとうぶ保全会 高瀬孝明代表、③NPO 法人グラウンドワーク西鬼怒 水谷正一理事長、④富屋西部ホテル愛護会 入江利長会長から、それぞれの立場で組織設立の経緯や特徴ある活動についてご説明

いただきました。

その後、「豊かな農村環境の地域資源は誰が守るのか」と題したパネルディスカッションを開催し、日本グラウンドワーク協会 中里良一専務理事によるコーディネートののもと、先にご講演いただいた長山室長をはじめ事例紹介をいただいた各組織代表の皆さまの4名をパネリストに迎え、農村における「地域資源とは」から始まり、地域資源にかかる保全・維持管理の現状、組織が抱える課題や問題、解決への可能性となる提案など多面的な視点で意見が交わされ、客席も相まって活発な意見交換がなされました。

翌日の現地研修会にはグラウンドワークの竹谷理事長や県協議会の大久保会長なども出席され、小山市で多面的支払交付金活動に取り組む「恩川西部環境保全会」と「みたとうぶ保全会」を、宇都宮市では活動するグラウンドワーク西鬼怒と、それぞれの基幹となる活動や環境に配慮した取り組み等が紹介されました。



日本グラウンドワーク協会 竹谷理事長挨拶



現地研修会（みたとうぶ）

第41回全国土地改良大会が宮城県で開催



日時：平成 30 年 10 月 16 日（火）

午前 11 時 45 分～

場所：宮城県宮城郡利府町

第 41 回目を迎えた全国土地改良大会は、全国土地改良事業団体連合会及び宮城県土地改良事業団体連合会の主催（後援：農林水産省ほか 11 団体）により、去る 10 月 16 日（火）、宮城県宮城郡利府町の「宮城県総合運動公園（グランディ 21）セキスイハイムスーパーアリーナ」において、全国の土地改良関係者約 6,000 人が参集して開催されました。本県からは、会員土地改良区及び本会の役職員の総勢 106 名が参加しました。

今回の宮城大会は、「農」「食」「環境」を支える基盤、土地改良事業（農業農村整備）の価値や役割を広く国民にアピールするとともに、震災から 7 年余、力強く復旧・復興した農業・農村の姿を全国の農業者、水土里ネット、行政関係者などに知らせ、寄せられた多くの支援に感謝の意を示す場となりました。そして、「^{みどり}水土里」をしっかりと未来に引き継いでいくことを“伊達の地”宮城から高らかに宣言した復興大会となりました。

大会は、国歌斉唱の後、はじめに伊藤康志宮城県土地改良事業団体連合会長より開会挨拶、次に、二階俊博全国土地改良事業団体連合会長より主催者挨拶がありました。

土地改良事業功績者表彰においては、農林水産大臣表彰



二階全土連会長

6 名、農林水産省農村振興局長表彰 16 名、全国土地改良事業団体連合会長表彰 46 名が受賞されました。本県

からは、久郷浩荒川南部土地改良区理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。（久郷氏の経歴は後記のとおり）

また、宮崎まさお都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問がコーディネータとなり、「東日本大震災における創造的復興への軌跡」をテーマに様々な取り組みで復興を成し遂げている 4 組織の代表との基調報告、開催地である宮城県の優良地区としての事例紹介もありました。

大会宣言では、宮城県農業高等学校の島貫萌さんと寺崎大蔵さんによる、災害からの早期復旧・復興を目指し、「^{みどり}水・土・里」をしっかりと未来に引き継いでいくと高らかに宣言（後記）がなされました。



受賞者 久郷理事長



水野岐阜県土連副会長

最後に、大会旗が伊藤宮城県土連会長から西村徹全土連副会長へ、そして次期開催県の水野光二岐阜県土連副会長へ手渡され、亀谷久雄宮城県土連副会長の閉会の挨拶をもって、式典は盛会のうちに終了しました。

第 42 回全国土地改良大会（岐阜大会）
日 時：平成 31 年 10 月 16 日（水）
場 所：岐阜メモリアルセンターで愛ドーム
テーマ：清流で未来をうるおす土地改良
～水土里の恵みを新たな世代へ～

受賞者紹介 ◆全国土地改良事業団体連合会長表彰◆

久郷 浩 氏の略歴

昭和 21 年 7 月 15 日生まれ 72 歳 那須烏山市在住

平成 13 年 11 月 荒川南部土地改良区理事

平成 24 年 4 月 荒川南部土地改良区理事長、現在に至る

平成 24 年 5 月 南那須土地改良事業団体協議会副会長、現在に至る

平成 24 年 6 月 南那須地域土地改良事業推進協議会監事、現在に至る

同年 同月 農業農村整備部会部会員

平成 24 年 7 月 栃木県ほ場整備連絡協議会理事

平成 28 年 7 月 栃木県ほ場整備連絡協議会副会長、現在に至る

平成 13 年 11 月に荒川南部土地改良区の設立とともに理事に就任し、平成 24 年 4 月に理事長に就任されました。当改良区では担い手育成・農地集積及び自然環境に配慮した圃場整備を実施したところであり、認定農業者でもある氏はその中心となって、農地集積（ブロックローテーション）を土地改良区として取り組まれたほか、離農者の受け皿として平成 15 年 6 月に営農集団を設立、平成 21 年 5 月に法人化するなど、リーダーシップを遺憾なく発揮し、健全な土地改良区の運営と発展に大きく貢献されました。

また、管内に生息していた植物や生物については、生態系保全委員会を結成し、多くの高齢者や子供たちの参加を得て、生態系調査や移植作業を行い農村環境の保全に努めたところであり、現在も生き物調査やホタルの観察会として継続的に実施されています。平成 17 年からは、都市農村交流事業として豊島区民との交流をスタートさせ、役員ほか多くの組合員や地域住民等の理解と参加により継続的に実施、結果として土地改良区の活性化に繋がっています。これらの取り組みにあたり氏は、率先垂範をモットーに創意工夫を心掛けて取り組んでおり、他の役員等の模範となるものであります。

さらに、平成 24 年 6 月から平成 30 年 3 月においては本会の農業農村整備部会員として、土地改良事業の予算確保に係る要請活動へ積極的に参加するなど、広範な土地改良事業の推進と発展に多大なる貢献が認められ、その功績は誠に大なるものであります。

◇ 大 会 宣 言 ◇

私たちの住む宮城県は、東北地方のなかにあっては比較的温暖な気候で、東に広がる太平洋と西にそびえる奥羽山脈に挟まれ、仙台平野や大崎耕土など広大な水田が広がる、四季折々の豊富な食材にも恵まれた、魅力あふれる“ふるさと”です。

これらの豊かな農地は、仙台藩祖 伊達正宗公など、先人の情熱と懸命な努力の賜物であり、この美しい農業・農村を受け継いだ私たちは、その恩恵を大いに享受してきました。

今、全国の農村では高齢化や人口減少による離農が進み、耕作放棄地が増加し、農業営利施設の老朽化など、農業農村を取り巻く状況は大変厳しいものとなっています。このまま放置するならば、祖先から受け継いだ財産を未来に遺すことなど到底できるものではありません。私たちが受けた恩恵はそのまま未来の人々が受けられるよう、私たちは男性も女性も、そのもてる知恵と能力を結集し、このような課題にしっかりと対応していかなければなりません。私たちが受け継いだこの“ふるさと”を未来の人々に引き渡すことは、私たちの責務なのです。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した地震と大津波による東日本大震災は、沿岸の農地や農業用施設にも未曾有の被害をもたらし、私たちの生活や地域の繋がりをすっかり打ち壊してしまいました。

しかし、全国の皆さまからのたくさんの支援に勇気づけられ、私たちは立ち上がり、全国の皆さまとの強い絆を信じ、自らの力で、自らの道をひらくという強い気持ちで、これまで歩んで来ました。

東日本大震災からの復興は未だ道半ばです。そして全国各地で発生した地震や豪雨によって被災された方々は、元の生活や絆を取り戻そうと今も懸命の努力を続けています。

ここに集う私たちは、東日本大震災を始めとする災害からの早期復旧・復興を実現するとともに、農業農村整備事業の着実な推進により、先人たちの叡智の結集であるかけがえのない農業・農村を守り、育み、「水」と「土」と「里」をしっかりと未来に引継いでいくことを、ここ、“伊達の地”宮城から高らかに宣言します。

とちぎ“食と農”ふれあいフェア2018

日時：平成30年10月27日（土）、28日（日）
午前10時00分～午後4時00分
場所：栃木県庁

本会は、今年度も主催者団体として、とちぎ“食と農”ふれあいフェアに出展いたしました。当フェアは、食と農の魅力を発信することで、消費者の農業・農村への理解促進、生産者との信頼関係の強化を図ることを目的に開催されるものです。今回は、農業農村整備に関するパネル展示や全国水土里ネットが作成した子供向けクイズ・ゲームアプリに加え、卓上もみすり器を使った、田んぼアート米から玄米を作成する工程を体験していただきました。また体験した方には、参加賞として、田んぼアート米「とちぎの星3合」を配付いたしましたが、昨年より100名程度多い約400名余りの方にご来場いた



オープニングセレモニー

だき、「農業の魅力」を広くPR出来た二日間となりました。

※田んぼアート米提供：小山市美田東部・絹・思川西部土地改良区



たくさんの方にご来場いただきました

ゲームアプリを体験



もみすり体験



参加賞

農業農村整備の集い開催

日時：平成 30 年 11 月 14 日（水）

午後 1 時 30 分～

場所：東京都砂防会館

全国土地改良事業団体連合会及び都道府県土地改良事業団体連合会は、全国の土地改良事業関係者約 1,300 名を集めて「農業農村整備の集い」を開催しました。

初めに、二階俊博全国土地改良事業団体連合会長が主催者挨拶に立ち、「闘う土地改良」を掲げ、組織一丸となって闘った結果、土地改良代表の進藤かねひこ議員が誕生し、全国を飛び回り元気に頑張っております。また、進藤議員と、車の両輪たらんと志を固めた宮崎まさお氏も全国の皆さまのところへ元気に走り回っております。一方、予算については、我々政治で出来ることをみんなで作っていくことが“闘う土地改良”であり、全国の農家の皆様に応えなければなりません。しっかりやろうではありませんか。」と挨拶されました。

続いて、吉川貴盛農林水産大臣より、「農業農村整備事業関係予算は平成 30 年度当初予算と前年度補正予算と合わせることで 5,800 億円を計上し、皆様の期待に概ね応えられる規模にまで回復しました。一方で、全国各地からは引き続き事業の推進を求める切実な声を頂いていることから、今後とも必要な予算の確保に全力で取り組んで参りますので、皆様にはより一層力添え頂くことをお願い申し上げます。」と祝辞を述べられました。

次に、農林水産省から小里泰弘副大臣、高鳥修一副大臣、濱村進政務官、高野光二郎政務官をはじめ、塩谷立農林・食料戦略調査会長、公明党井上義久副代表及び石田祝稔政務調査会長、西川公也内閣官房参与、進藤かねひこ都道府県土連会長会議顧問の紹介がなされ、塩谷会長、井上副代表、進藤顧問からそれぞれ来賓挨拶があった。さらに、来賓としてご臨席頂いた衆参両院国会議員約 120 名、農林水産省農村振興局幹部職員が紹介され

ました。

続いて、宮城県土地改良事業団体連合会の菅原喜久男専務理事から要請文（後記）が提案され、これを全会一致で採択しました。

情勢報告では、宮崎まさお都道府県土連会長会議顧問から、「来年の闘いでしっかり結果を出して、進藤先生に続く、『アヒルの 2 つ目の水かき』になれるよう精一杯頑張っております。皆様方から引き続き、暖かいご支援を賜りますことをお願い申し上げまして、報告に代えさせていただきます。」と挨拶されました。

事例発表では、基盤整備で農業の生産性を飛躍的に向上させるとともに、地域で働く女性の活躍を推進している事例について、全国水土里ネットが作成したビデオによる発表があった。

最後に、岐阜県土地改良事業団体連合会の藤墳守副会長の音頭によりガンバロウ三唱が行われ、盛会裏に終了しました。

集い終了後、本県の参加者 27 名は、要請書に盛り込んだ事項の実現を図るため、本県関係 11 名の衆参両院国会議員等に要請を行いました。



主催者挨拶を述べる二階俊博全土連会長

要 請 書

全国の農村では、都市に先駆け高齢化や人口減少が進んでおり、農業従事者の高齢化、減少等により、農地、農業用水等の管理や営農の継続が困難になるなど、様々な影響をもたらすことが危惧される。

農業を次世代の担い手にとって魅力ある産業としていくためには、農地の集積・集約、大区画化、汎用化等の農地整備や将来を見越した適時適切な農業水利施設等の維持・更新が必要となっている。

加えて、全国各地でため池を含む農業水利施設等の老朽化が進行する中、今年の西日本を中心とした七月豪雨、台風第二十一号、さらには北海道胆振東部地震などに代表されるように、大規模地震や気候変動による豪雨災害が多発しており、国民の生命と財産を守るためにも、ため池等の耐震化や洪水被害防止対策などの農村地域の防災・減災対策の推進を通じた国土の強靱化が重要な課題となっている。

水土里ネットには、力強い農業の実現等を通じた食料の安定供給や農業・農村の多面的機能を発揮させるため、先人達のたゆまぬ努力により維持・活用されてきた農地・農業用水等の地域資源を良好な状態で次世代に継承していく責務があることから、水土里ネットが有する技術、経験、水土里情報システムなど持てる能力を最大限に発揮するため、その体制強化の推進が喫緊の課題となっている。

このような中、昨年九月、農地中間管理機構と連携した農業者の費用負担を求めないほ場整備事業や、ため池等の耐震化を迅速に進める事業の創設等を盛り込んだ改正土地改良法が施行され、さらに、本年六月には、土地改良区の組織・運営に関する改正土地改良法が成立したところである。これに則って、農業・農村を巡る情勢変化にしっかりと対応し、これから新たな展開を目指して進んでいくことになる。

また、土地改良関係予算は、昨年、「闘う土地改良」の旗印の下、組織を挙げて様々な活動を行った結果、平成二十九年度補正予算と平成三十年度当初予算を合わせて五千八百億円を確保し、現場のニーズに一定程度応えられるようになったものの、そのうちに占める当初予算の割合は四分の三程度に留まっており、安定的・計画的な事業実施のために、当初予算での予算の確保が必要である。

水土里ネットは、農業・農村、更には、我々自身が抱える課題をも直視し、国が示した農政の展開方向を踏まえ、女性の能力も活用しつつ積極的な貢献を果たしていく覚悟である。

このため全国の水土里ネットは、これまで培ってきた経験と技術を活用し、「闘う土地改良」のスローガンの下、次の事項の実現を国に強く要請する。

記

- 1 農業競争力の強化や国土強靱化を図るため、昨年九月に施行された改正土地改良法を積極的に活用した事業制度の現場へのより一層の普及を図ること
- 2 本年六月に成立した改正土地改良法の適切な実施を図るため、その啓発普及に努めるとともに、土地改良区の運営基盤の強化に対する支援を推進すること
- 3 農業・農村が有する多面的機能をしっかりと次世代に引き継ぐため、農地や水路、農道の保全活動等が適切に実施できるよう、多面的機能支払制度への十分な支援を行うこと
- 4 これらの事業を円滑に行うため、平成三十一年度当初予算では、現場のニーズに十分応えられるよう、概算要求の満額確保を行うとともに、十分な地方財政措置を講じること
- 5 災害で被災した農地・農業用施設の早期復旧を図るため、災害査定手続きの簡素化などにより、災害復旧事業の早期着工を促進するとともに、補正予算を含め必要な予算を早急かつ確実に確保すること

平成30年度県営土地改良事業の 換地業務に係る感謝状贈呈式を開催

日時：平成30年11月19日（月）

午後1時30分～

場所：栃木県公館

栃木県公館において、県営土地改良事業の換地業務が完了した土地改良区に対する感謝状の贈呈式が開催されました。

式典では、平成29年度までに換地業務が完了した小貝川沿岸2期地区、金田北部3期地区、大桑地区の3地区、3土地改良区に対して、福田富一知事から感謝状が贈呈され、たゆまぬ努力と熱意を持って、地域との緊

密な連携のもと土地改良事業における換地業務の遂行に尽力されたことに対して、敬意を表するとともに、地域農業の発展に向けてより一層ご尽力賜りたいと挨拶を述べられました。

続いて、本会大久保寿夫会長から、円満に換地処分が完了されたことに対するお祝いと関係地域の農業・農村の発展と関係各位の更なる活躍を祈念申し上げると来賓挨拶を述べられました。

最後に、受賞者を代表し、市貝町土地改良区の藤平元一理事長から謝辞が述べられ、式典が終了しました。

感謝状贈呈土地改良区（採択年度順）

市貝町土地改良区〔小貝川沿岸2期地区（市貝町）〕

金田北部土地改良区〔金田北部3期地区（大田原市）〕

日光市土地改良区〔大桑地区（日光市）〕



市貝町土地改良区



金田北部土地改良区



日光市土地改良区（大桑地区圃場整備事業推進委員会）

「ふるさとの田んぼと水」 子ども絵画展2018

応募締切：9月12日（水）

入賞作品受賞式：12月8日（土）東京都美術館

入賞・入選・地域団体賞作品展示：

12月5日（水）～12月11日（火）東京都美術館第2展示室

入賞作品展示：1月8日（土）～1月14日（月）東京タワー

全国水土里ネットと都道府県水土里ネットが主催する「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展が開催されました。多くの災害に見舞われた年であったにもかかわらず、全国より6,284点にのぼる作品の応募をいただきました。ありがとうございます。本県からは3名の作品が入選しました。



「いなかにもたおいで」

塩田 昂^{すばる}（1年）
市貝町立 赤羽小学校



「糸つむぎ体験」

栗田 遥希愛^{るきあ}（4年）
宇都宮市立 海道小学校



「大きな葉の下には里いもがござり実っていたよ!みんなで収穫!」

小林 咲心^{さきみ}（4年）
宇都宮市立 宮の原小学校

会員情報

女性職員研修会に参加

去る8月10日、小山市土地改良推進協議会主催の女性職員研修会に参加いたしました。開運おやまうどん会から講師を招き、小山市の土地改良区女性職員とともに、手打ちうどんの実演及び講習が行われました。昨年のフ

ラワーアレンジメントに引き続き、今回はうどん打ちという「食」を通して、女性同士の更なる交流を深めました。



秋の叙勲 大出巖氏が瑞宝単光章を受章



政府は、11月3日付けで2018年秋の叙勲の受章者（4,079名）を発表しました。本県関係では65名（旭日章17名、瑞宝章48名）が受章されました。

見野土地改良区前理事長をお務めになられた大出巖氏が瑞宝単光章を受章されました。

お祝いを申し上げますと共に今後の益々のご活躍をお祈りいたします。

【経歴】

平成1年3月～平成29年3月 見野土地改良区理事長

平成15年4月～平成18年3月 栃木県土地改良事業団体連合会監事

平成18年4月～平成20年3月 栃木県土地改良事業団体連合会理事

第18回花と農産物の清南大地食の祭典(水土里ネット清原南部)

日時：平成30年10月20日（土）

午前11時00分～

場所：宇都宮市内

土地改良区」が共催する「花と農産物の清南大地食の祭典」が宇都宮市上籠谷地内の農地において行われました。

本会職員もイベントに参加し、お囃子演奏を聴き、おいしいお肉に舌鼓を打ちました。

「清原南部明るいむらづくり推進会議」と「清原南部



BBQを楽しむ本会参加者



お囃子の演奏♪



山あげ祭

シリーズ土地改良区紹介㊼

水 土 里 ネット 烏山

烏山土地改良区

<土地改良区の沿革・地区の概要>

当土地改良区のある那須烏山市は、平成 17 年 10 月に旧烏山町・南那須町が合併して誕生しました。栃木県の東部に位置し、県都宇都宮市から約 35kmの距離にあります。北部はさくら市・那珂川町、南部は市貝町・茂木町、西部は高根沢町、東部は茨城県常陸大宮市に接しています。市内を JR 烏山線が東西に走っており、国内初の蓄電池駆動電車「ACCUM（アキュム）」が運行しています。

地形は、阿武隈八溝山系に属する丘陵地帯であり、平野部を那珂川が、丘陵を縫うように荒川・江川などの大小河川が流れています。また、450 年以上の歴史をもつ野外歌舞伎「山あげ祭り」はユネスコ無形文化遺産に登録されています。そして、国の民族文化財である烏山和紙「程村紙」をはじめ、那須烏山市には、貴重な文化資源が多くあります。近年では、そば作りも盛んで近隣市町と「八溝そば街道」を立ち上げ、そば祭り等のイベントに取り組むなど、歴史と伝承、文化・創造が融合する市です。

本地区は、那珂川町の南部から那須烏山市の北部に広がる 6 つの地区（北部・境・堀抜・神長滝・中山・興野）からなっており、それぞれ一級河川篤川から大田原市、那珂川町を経て水を供給する西の原用水、更には那珂川・江川の一級河川に設けた堰より取水しております。そのうち、境・堀抜地区には古くからの隧道があり現在も利用されていますが、中でも堀抜用水は今から 180 年ほど前、旭地区から初音地区にかけての 40ha に水を供給するために掘

られました。出口には、当時の烏山藩主大久保忠成が名付け書いたといわれる耕便門の碑があります。

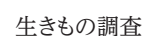
このように、独自の特色を持つ 6 土地改良区が平成 18 年に合併推進協議会を立ち上げ、平成 20 年 4 月に烏山土地改良区を設立しました。

<維持管理について>

本土土地改良区では、旧土地改良区ごとに地区委員会を設置し、圃場整備で造成された用排水施設の維持管理に努めていますが、どの地区においても施設の老朽化が進んでいるのが現状です。現在では、ストックマネジメント、施設の長寿命化を図るため、組合員の協力のもと農業基盤整備促進事業等の補助事業を活用しながら維持管理を行っています。また、施設の規模や受益面積、組合員数の違い等か



耕便門



ら維持管理費用の負担が大きい地区もあり対応を考えさせられているところもありますが、水路や農道の草刈り・堀さらい等については、多面的機能支払交付金事業を活用することでスムーズな維持管理が実施されています。更には、地域が一体となった共同活動を行うことで一人一人の意識が高揚し、遊休農地の発生防止に繋がっていることも感じています。この事業を通じて、非農家地域住民の参加が少しずつ増えている組織もあり、地域の更なる活性化が期待されていますが、その一方で、農業者の高齢化に伴う担い手不足等、改良区が抱える課題は深刻な状況にあります。農地を集積し担い手の確保を図るためにも、今後新たな基盤整備事業や取組みを検討することとしています。



所在地 〒 321-0602
那須烏山市大桶 1926-9
TEL/FAX 0287-84-0868

設立年月日	平成20年4月1日	理 事 数	11名
受 益 面 積	440.7ha	監 事 数	3名
組 合 員 数	945名	職 員 数	2名

県営経営体育成基盤整備事業小代地区の竣工式が開催

日時：平成 30 年 11 月 1 日（木） 午前 10 時 00 分～
場所：日光市小代地内

竣工式は神事の後、加藤 久小代地区圃場整備事業推

進委員長の主催者挨拶、鈴木政明 県上都賀農業振興事務所長をはじめ、大嶋一生 日光市長、田井 哲 日光市土地改良区理事長、生井一郎 日光市議会議員多くの来賓者が祝辞を述べられ、事業の完成を祝福されました。

◇事業概要◇

事業名	県営経営体育成基盤整備事業
事業区域	日光市小代、鹿沼市板荷地内
事業実施年度	平成 18 年度～平成 29 年度
地区面積	61.9ha
施工面積	48.3ha
総事業費	8 億 5 百万円
組合員数	80 名



県営農業競争力強化基盤整備事業下稲葉地区の起工式が開催

日時：平成 30 年 11 月 15 日（木） 午前 9 時 30 分～
場所：壬生町環境センター

起工式は神事の後、中村正 下稲葉地区圃場整備委員

長また鈴木理夫 壬生町土地改良区理事長の主催者挨拶、南木好樹 県参事兼下都賀農業振興事務所長が事業主体としての挨拶があり、多くの来賓を代表して小菅一弥 壬生町長から祝辞が述べられ、工事の安全を祈願しました。

◇事業概要◇

事業名	県営農業競争力強化基盤整備事業
事業区域	壬生町上稲葉、下稲葉、壬生甲、壬生乙地内
事業実施年度	平成 29 年度～平成 35 年度（予定）
地区面積	218.3ha
施工面積	197.0ha
総事業費	29 億 7 千 8 百万円
組合員数	358 名



県営農業競争力強化農地整備事業荒井町島地区の起工式が開催

日時：平成 30 年 12 月 10 日（月） 午前 8 時 00 分～
場所：大田原市荒井地内

起工式は仏事の後、高橋勇丞 大田原市土地改良区理

事長の主催者挨拶、原利浩 県参事兼那須農業振興事務所長の事業主体としての挨拶があり、津久井富雄 大田原市長を始め、関係議員、関係機関の多くの来賓から祝辞が述べられ、工事の安全を祈願しました。

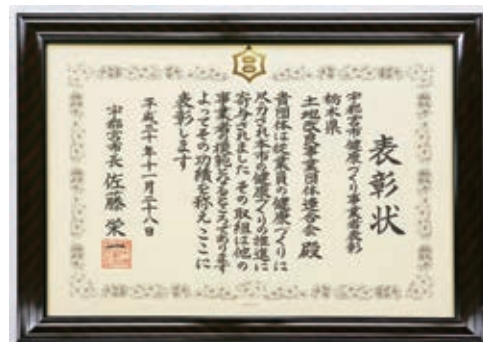
◇事業概要◇

事業名	県営農業競争力強化農地整備事業 荒井町島地区
事業区域	大田原市荒井、町島、中田原、富池、戸野内地内
事業実施年度	平成29年度～平成34年度（予定）
地区面積	67.9 ha
施工面積	61.2 ha
総事業費	10億6千2百万円
組合員数	40名



宇都宮市健康づくり事業者表彰式

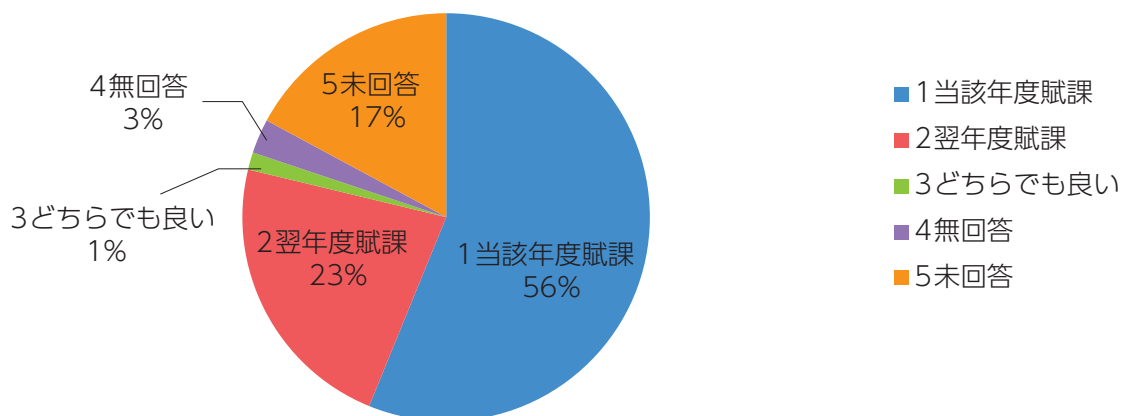
去る11月28日(水)、宇都宮市医療保険事業団において「平成30年度宇都宮市公衆衛生事業者市長表彰式・宇都宮市健康づくり事業者表彰」が行われ、宇都宮市初となる『宇都宮市健康づくり事業者表彰式』を受賞いたしました。本会では、産業医による定期的な健康相談の実施や職員が働きながら健康づくりに取り組める職場環境整備を行っております。これからも、本会として健康寿命の延伸に寄与できるよう職員の健康増進に努めてまいります。



特別賦課金に関するアンケート調査結果について

去る11月7日、会員の皆さまには、「特別賦課金に関するアンケート調査」にご協力をいただき、大変ありがとうございました。会員の皆さまから貴重なご意見等をいただきましたが、下記の円グラフから分かるように、「事業実績に対して賦課する当該年度賦課が望ましい。」という意見が半数を占める結果となりました。これを踏まえ、更なる事務の効率化に努めて参りたいと思いますので、皆さまのご理解とご協力を引き続きよろしくお願いします。

特別賦課金の賦課方法について



(平成30年12月4日現在)

本会第102回通常総会のお知らせ

本会は次のとおり、第102回通常総会を開催いたします。

◇第102回通常総会◇

日 時 平成31年3月22日（金）午前10時00分～

場 所 栃木県土地改良会館3階大会議室

宇都宮市平出町1260番地

TEL：028－660－5701

出前講座を活用しましょう

本会では、土地改良区の役職員等を対象とした出前講座を行っております。

講座内容については、役員改選等により新しく役員に就任された方々のための役員の職務について、土地改良区業務運営に係るものなど、幅広い内容でご要望に応じて対応させていただきますので、次の連絡先までお気軽にお申し込みください。

会員向けホームページ作成サービスのお知らせ

会員様を対象としたホームページ作成サービスを行っております。

気軽にホームページを開設出来る様、導入費・維持費共に安価にて提供しております。

詳しくは総務課まで、お気軽にお問い合わせください。

◇連絡先◇

水土里ネットとちぎ（栃木県土地改良事業団体連合会）

総務部 総務課

TEL：028－660－5701 FAX：028－660－5711

農林年金からのお知らせ

年金の支給開始年齢を過ぎたのに「農林年金から何も連絡がない」という方はいらっしゃいませんか？

住所が登録されていない可能性がございますので下記の農林年金相談センターまでお電話ください。

農林年金管理徴収課
TEL.03－6811－0550

※お電話いただく際には農林年金の「組合員証」など「組合員番号（10桁）」が書かれた書類をお手元にご用意いただけると確認がスムーズにできます。（わからない場合には、氏名（旧姓）・生年月日・元所属団体名等でお調べすることとなります。）

農家負担金軽減対策事業について

全国水土里ネットが行う負担金支援対策事業には7つの事業があります。

- 1 土地改良負担金償還平準化事業（利子補給）
- 2 特別型国営事業計画償還助成事業（利子助成）
- 3 担い手育成支援事業（利子助成）
- 4 水田・畑作形成所得安定対策等支援事業（無利子貸付）
- 5 災害被災地域土地改良負担金償還助成事業（利子助成）
- 6 経営安定対策基盤整備緊急支援事業（利子助成）
- 7 農地有効利用推進支援事業（利子助成）【平成30年度～】

※各事業内容ごとに採択要件や対象となる負担金が異なります。

農用地利用集積に取り組んでいるが、「助成制度を知らなかった。」「活用したいがどうして良いかわからない。」
とお思いの会員の皆さま、ぜひ総務部総務課へお問い合わせください。

～事業に見合う且つ要件達成可能な助成制度をはじめてみませんか！！～

株式会社日本政策金融公庫からのお知らせ

農業基盤整備資金の金利

平成30年12月19日付で、農業基盤整備資金の金利が次の通り改訂されました。

金利情勢によって変動いたしますので、最新の金利は宇都宮支店にお問い合わせいただくか、金融公庫ホームページでご確認ください。

(単位：%)

区 分	融資期間にかかわらず	融資期間（一例）			
		5 年	10 年	15 年	20 年
都道府県栄補助残	0.45	—	—	—	—
団 体 営 補 助 残	0.30	—	—	—	—
非 補 助 一 般	0.30	—	—	—	—
非補助利子軽減	0.30	—	—	—	—
災 害 復 旧	—	0.20	0.20	0.30	0.30

お問い合わせ先：

株式会社日本政策金融公庫 宇都宮支店 農林水産事業 農業食品課 担当：田中 TEL 028-636-3901

<https://www.jfc.go.jp/>

日本公庫

検索

編集後記

皆さま、明けましておめでとうございます。今回の表紙の鎌倉山の写真は、某新聞朝刊に掲載されていた写真に負けじと、早朝（5時半ごろ）に起床し、撮影してきたものです。スマホ撮影した割には良い写真が撮れたな、と自画自賛しています。今年もよろしくお願いいたします。

迎春

農業農村整備事業の推進につきましては、平素から格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
本年も農業農村の振興発展のため精進して参りますので、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 31 年 1 月

水土里ネットとちぎ（栃木県土地改良事業団体連合会）

会 長	大久保 寿 夫	（小山市長）
副 会 長	高 橋 勇 丞	（大田原市土地改良区理事長）
同	田 井 哲	（日光市土地改良区理事長）
専務理事	池 田 真 久	（学識経験者）
理 事	津久井 富 雄	（大田原市長）
同	星 野 光 利	（上三川町長）
同	岡 部 正 英	（佐野市長）
同	三 田 隆 俊	（三栗谷用水土地改良区理事長）
同	黒 川 英 代	（南河内土地改良区理事長）
同	花 塚 隆 志	（さくら市長）
同	野 中 位 徳	（うつのみや中央土地改良区理事長）
同	見 目 匡	（芳賀町長）
同	福 島 泰 夫	（那珂川町長）
同	大 嶋 一 生	（日光市長）
同	綱 川 茂	（氏家土地改良区理事長）
代表監事	藤 平 元 一	（市貝町土地改良区理事長）
監 事	小 森 照 男	（烏山土地改良区理事長）
同	穂 野 和 人	（学識経験者）
事務局長	高 橋 克 己	外職員一同